

■立原翠軒 儒学者。彰考館総裁。「大日本史」上梓で、門人藤田幽谷と見解を異にし、水戸藩党争の遠因になった。

たちはらすいけん

石田梅岩没・1744＝

常陸国水戸城下で、水戸藩彰考館の管庫役立原蘭溪の子に生まれる。

徳川吉宗隠居1745＝ 1歳：

徳川吉宗没・1751＝ 7歳：

薩摩藩工事・1753＝ 9歳：

幼時の頃より頭角を顕わし、同藩の儒者谷田部東壑について学び、

大岡忠光没・1760＝16歳： 徂徠派の田中江南が水戸に来て徒を集めて教授した際、師東壑とともに、入門。

・・・・・・1762＝18歳：

・・・・・・1763＝19歳： 江南が去った後、江戸彰考館の書写場傭に補せられ、

文章を祖棟の高足大内熊耳に、また細井平洲に唐音を学ぶ。

古学を学んだので、宋学中心のその頃の藩内では受け容れられず、20余年間は、ひたすら館内の書を読み、歴代の法書墨帖の模写等に力を尽くす。

御蔭参流行・1771＝27歳：

田沼意次老中1772＝28歳：

・・・・・・1780＝36歳：

その努力が実を結び、

田沼意次失脚1786＝42歳： *松平定信の老中就任を推進し、数年前に現地入りして藩政改革を進め、のちに水戸藩中興の祖といわれることになる6代藩主徳川治保によって、抜擢され、総裁となる。

初の横綱・・1789＝45歳：

蝦夷地侵略についても警告を發し、

松平定信引退1793＝49歳： 門人の木村謙次を松前に派遣して、実情を探らせる。

古事記伝・・1798＝54歳：

蝦夷地直轄始1799＝55歳： 「大日本史」の紀伝浄写本80巻を徳川光圀の廟に献じる。

総裁には18年余留まり、水戸藩の文柄を握る。国史編集の仕事もこの間に復活するが、

アフリカ船来航始1803＝59歳： *「大日本史」を上梓しようとして、門人藤田幽谷と見解を異にし、学派の対立や政治の対立が結びついて、藩内二分の因となったことから、致仕し、

アフリカ船狼藉・1807＝63歳：

以後は、江戸藩邸内に住まって気ままな生活を送り、新井白石の著書を愛し、多く所持していた上に、安積湛泊の家に伝わる彼の書簡を編集して「新安手簡」の一書を作った。その他白石の遺文集もある。江戸に出てくると必ずその墓に参った。

伊能測量終・1816＝72歳：

水野忠成老中1818＝74歳：

強い近眼であった。しかし読書の時は、暮夜といえどもごく細かな字まで読んだという。70歳をこえても精力衰えず、灯下でよく細字を書いた。人を教える場合は、一様に教えるというのではなく、それぞれの長所に従って教育した。それで小宮山楓軒・藤田幽谷などが、門下から輩出した。また立原杏所(画家)はその子である。

シボク 朴来日・1823＝79歳：

没した。「西山遺聞」「六礼略説」「此君堂文集」「海防集説」など。